

2020年度（令和2年度）緑が丘小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

【合言葉】みどりの子 明るく やさしく 根気よく

「自分をつくり自立する子（生きる力）」

- ・ 友達をつくり力を合わせる子（社会性）
- ・ 豊かな心をつくる子（感受性・主体性）
- ・ 丈夫な体をつくる子（意欲・気力・体力）
- ・ 確かな考えをつくる子（課題解決力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

活気あふれる学校、やる気と自己有用感に満ちた児童、信頼される教職員を目指して、教職員が丸となり、職務に取り組む。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

陽南地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざした豊かな心をはぐくむ小中一貫教育 ～子供の自主的な活動を通して～

（1）活気あふれる学校

- ・ 校務分掌における取組や家庭・地域との連携を推進し、「教育目標」の具現化を図る。
- ・ 創意ある提案や意見交換により組織力を高め、学校経営への参画意識を高める。
- ・ 社会の変化に対応するため、新たなことに挑戦し、明るく前向きな職場づくりを行う。

（2）やる気と自己有用感に満ちた児童

- ・ 児童の内面を共感的に受け止め、安心して生活できるよう、一人一人を大切にする。
- ・ 児童が集団の中で自分を発揮し、他と協同する体験を重ね、一人一人と集団を育てる。
- ・ 児童のよさや成長を見取り、認め伸ばす指導により、自尊感情、自己肯定感を高める。

（3）信頼される教職員

- ・ 安全・安心な環境を整え、人権感覚を磨き、服務規律、業務の効率化を確保する。
- ・ 家庭や地域の声を聴き、問題点を速やかに工夫・改善するなど、誠意ある対応をする。
- ・ 情報を積極的に発信し、学校の姿、成果が見える指導を行い、家庭、地域の理解を得る。

4 教育課程編成の方針

- ・ 国、県の法令や指針、市の推進計画、スタンダード、指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- ・ 社会の変化へ対応できるよう、教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用により、基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力、表現力等の育成、学ぶ意欲の向上を図る。
- ・ 児童や学校経営に関する各種調査結果を、授業改善や学校改革に生かし、教育活動の見直し、校内外の資源活用など、実態に即した教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

- 一人一人と集団を育てる教育の実践、組織力・同僚性による効率的な職務の遂行、家庭・地域と一体となった取組の推進などによる、活気のある信頼される学校づくり

（2）学習指導

- 学び合い、ともに育つ ～主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して～

（3）児童生徒指導

- 集団生活の中で決まりを守り、思いやりの心をもって協力して活動できる児童の育成
～ルールやマナーを守り、自他を認め合い、主体的に行動できる児童の育成～

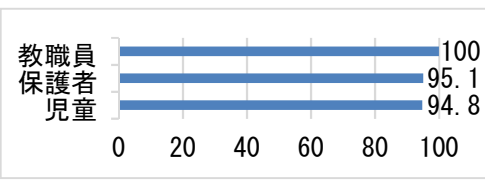
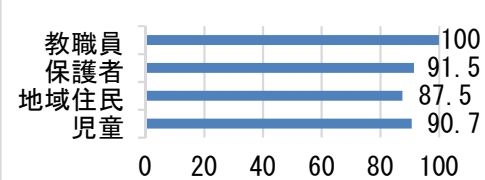
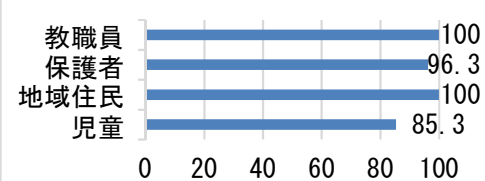
（4）健康（体力・保健・食・安全）

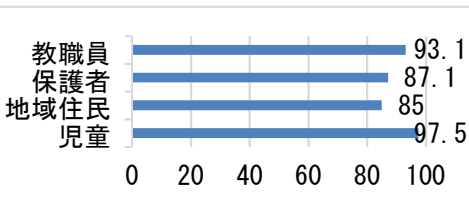
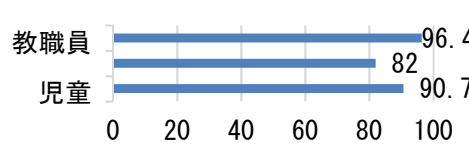
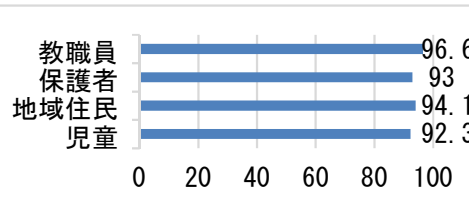
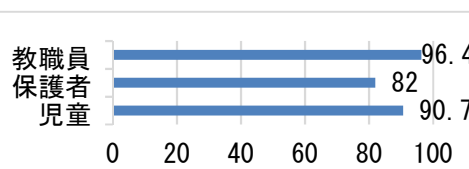
- ・ 「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の結果分析を生かし、年間を通じた体力向上の取組

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

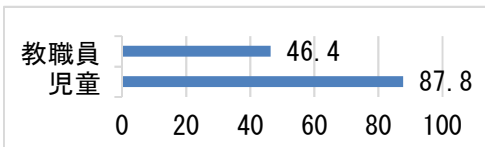
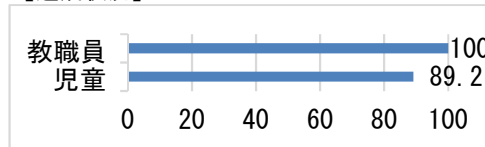
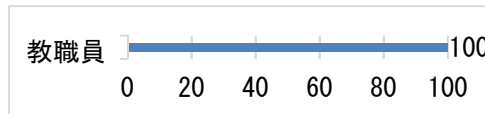
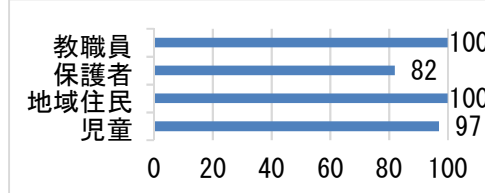
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

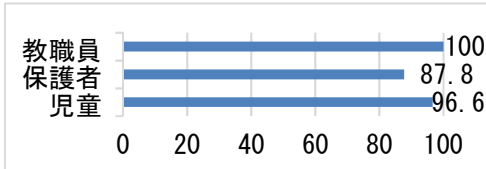
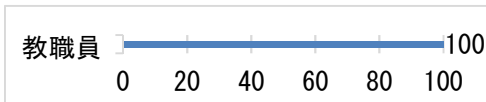
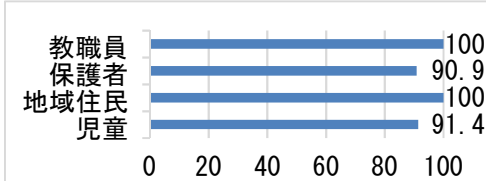
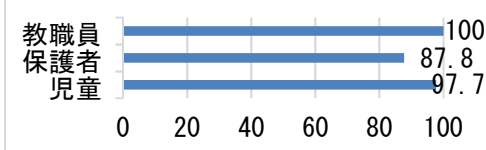
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 基本的な学習習慣を定着させるために、授業において学習のめあてを設定し、学習形態の工夫に取り組む。また、話合いや発表の仕方を指導し定着に努める。 ② 特別活動の話合い活動の実践を他の教科等にも生かして、主体的に話合い活動を実践する力の育成を図る。	B	【達成状況】  対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 学習に進んで取り組む意欲を高めるために、学習のめあてを設定し、見通しをもった学習が進められるようにする。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 思いやりの心を育むために、道徳教育・人権教育を充実させ、意図的・計画的な指導の実践を図る。 ② 学校行事等の関連を図った指導の展開を行う。 ③ 相手の気持ちを考えた言葉遣いができる児童の育成を目指し、教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築を図る。 ④ 思いやりの心や協力しようとする態度を育むために、各種縦割り班活動（集団登校等）の充実を図る。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 縦割り班活動や学校行事における地域住民とのふれあいの機会が取りにくい中、学校生活の中で、相手の気持ちを考えた言葉遣いを意識できるように、教員が見本となっていけるようにする。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 基本的生活習慣を身に付けようとする意識を高めるために、「みどりの子のやくそく」を各学級に掲示し、重点目標について繰り返し指導する。 ② 生活当番（教職員）が児童の実態から、改善に向けた生活目標を設定したり、季節や行事に合わせた生活目標を設定したりして全教職員で重点的に指導に当たる。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 新しい生活様式での学校生活の中で、守るべききまりが増えているが、児童はよく対応している。次年度も「緑が丘小生活のきまり」を徹底できるようにしていく。

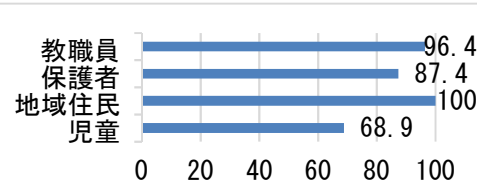
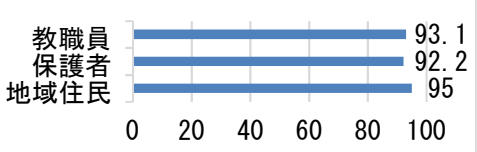
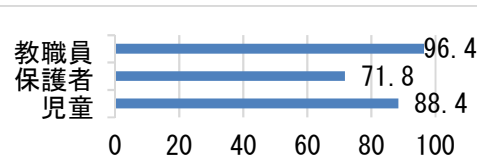
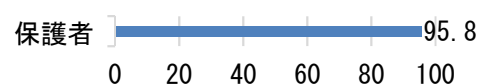
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 代表委員会の計画であいさつ運動強化週間を実施したり、あいさつ標語を掲示したりするなど、児童の主体的な活動によるあいさつの励行に努める。 ② 陽南中学校地域学校園や、緑が丘小学校魅力ある学校づくり地域協議会との連携を図り、保護者、地域と連携協力したあいさつ運動を実施する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>93.1</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.1</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>85</td></tr><tr><td>児童</td><td>97.5</td></tr></table> B すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 大きな声であいさつをするのが難しい場面では、会釈を活用するなど、状況に合わせて、工夫した挨拶ができるようにしていく。	対象	達成率	教職員	93.1	保護者	87.1	地域住民	85	児童	97.5
対象	達成率											
教職員	93.1											
保護者	87.1											
地域住民	85											
児童	97.5											
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① やる気と自己有用感に満ちた児童を育成するために、児童の内面を共感的に受け止め一人一人を大切にする。 ② 児童が集団の中で自分を発揮し、他と協同する体験や、競い合い高め合う体験を重ね一人一人と望ましい集団を育てる。 ③ 認め伸ばす指導により自尊心、自己肯定感を高める。 ④ 児童相互に認め合う場の設定を図る。 ⑤ 挑戦意欲を喚起する課題の設定を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>96.4</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.7</td></tr></table> B 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 児童の活動の様子が保護者に伝わるように、学級懇談や個人懇談、学年だより等を通して児童が粘り強く目標に取り組む様子を発信していくようにする。	対象	達成率	教職員	96.4	児童	90.7				
対象	達成率											
教職員	96.4											
児童	90.7											
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 給食時や清掃時の身支度指導、歯みがきや保健委員会の衛生検査など、学校生活の中の様々な保健指導を通して、基本的な生活習慣を身につけ、衛生的・健康的な生活ができるよう指導する ② 安全な生活を送るため、各教科等における安全に関する指導の充実を図り、ルールやマナーの指導を徹底し、怪我や事故の未然防止に努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.1</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.3</td></tr></table> A すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 手洗い・消毒の徹底・マスクの着用・せきエチケット・密を避けること、の指導を継続し、新型コロナウイルス感染症の防止に努める。 好き嫌いせずに給食を食べるなど、健康的に食事ができる給食指導も継続する。	対象	達成率	教職員	96.6	保護者	93	地域住民	94.1	児童	92.3
対象	達成率											
教職員	96.6											
保護者	93											
地域住民	94.1											
児童	92.3											
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 望ましい勤労観・職業観の形成を図るために「宮・未来キャリア教育」の充実を図り、年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導の展開を行う。 ② 地域の人材を活用した「プロに学ぶ仕事教室」を開催し望ましい勤労観・職業観の形成や夢や目標をもつ参考にする。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>96.4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>82</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.7</td></tr></table> B 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 キャリアパスポートを利用した支援が行えるようにする。	対象	達成率	教職員	96.4	保護者	82	児童	90.7		
対象	達成率											
教職員	96.4											
保護者	82											
児童	90.7											

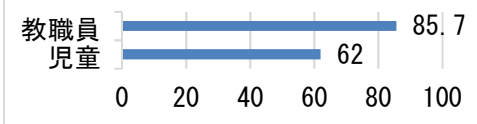
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上	① 教材研究の工夫やALTとの連携により、英語によるやりとりを中心とした授業実践の推進を図る。 ② 学校行事等へのALTの参加やALTとの交流の場の工夫を行い、生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ③ 教材等、備品の管理や校内掲示の工夫を行い、外国語活動に向けた環境整備の推進を図る。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.3</td></tr></table> B 対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 ALTとのやり取りや、授業中の様子、達成状況から継続して行いたい。	教職員	100	児童	91.3				
教職員	100									
児童	91.3									
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	① 生活科・社会科・総合的な学習の時間・道徳等の学習において、地域や郷土に関連付けた課題の設定を行う。 ② 特別活動（学校行事等）・校外学習における体験的な学習の場の設定を行い、児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達段階に応じて郷土に関する学習を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>57.1</td></tr><tr><td>保護者</td><td>57.6</td></tr><tr><td>児童</td><td>82</td></tr></table> A 児童以外の対象において、指標を達成せず、教職員は22.9ポイント、保護者は22.4ポイント、指標を下回る。 【次年度の方針】 DVD教材や、体験を伴う教材も利用し、宇都宮のよさを実感できるようにする。取組を保護者にも発信する。	教職員	57.1	保護者	57.6	児童	82		
教職員	57.1									
保護者	57.6									
児童	82									
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	① 授業におけるICT機器の効果的な活用や「情報モラル教育」の実践を通して、情報活用能力の育成を図る。 ② 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学習ニーズの把握に基づいた関連図書情報の提供や市立図書館と連携した授業実践を図り、学校図書館の整備を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>96.4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>71.8</td></tr><tr><td>児童</td><td>88.4</td></tr></table> A 保護者においては、指標を8.2ポイント、下回る。 【次年度の方針】 パソコンが一人1台導入されることから、情報モラル、教科書などで情報活用能力の伸長を図る。	教職員	96.4	保護者	71.8	児童	88.4		
教職員	96.4									
保護者	71.8									
児童	88.4									
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答80%以上	① 高齢者への感謝や敬う心を育むために、運動会や交流会・感謝の会などの学校行事等への案内・招待を積極的に行う。 ② 生活科における昔遊び体験における交流活動の推進を図り、高齢者と触れ合う機会の充実に努める。	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.5</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>87.5</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.7</td></tr></table> B すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 交流をするのが難しい状況が続いている。可能な範囲で交流する機会を確保しつつ、道徳等で高齢者との交流体験について情報交換し、感謝やいたわりの心を育成していく。	教職員	100	保護者	91.5	地域住民	87.5	児童	90.7
教職員	100									
保護者	91.5									
地域住民	87.5									
児童	90.7									

目 指 す 学 校	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 生活科・総合的な学習の時間における活動において「持続可能な社会」と関連付ける学習活動の見直しや児童の実態に応じた具体的な活動内容の検討を行い、年間指導計画を作成する。 ② 「持続可能な社会」に対する児童の関心を高めるため、牛乳パックやエコキャップ収集に、地域協議会やまちづくり協議会とともに取り組む。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>46.4</td></tr><tr><td>児童</td><td>87.8</td></tr></table> 児童の肯定回答は、指標を達成しているが、教職員においては、指標を33.6ポイント下回り、児童と比べて41.4ポイントの差がある。 【次年度の方針】 持続可能な社会として普段からできることを全教職員で共有するとともに児童へも意識づけをする。	対象	達成率 (%)	教職員	46.4	児童	87.8			
	対象	達成率 (%)										
	教職員	46.4										
	児童	87.8										
B1 児童は、体力づくりに関心を持ち、進んで体力の向上に励んでいる。 【数値指標】児童・教職員アンケート 「自分は、運動集会や、検定するとき、目標に向かって努力している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 運動集会（ドッジボール・なわとび）や各種検定カードの効果的な活用を図り、自分のめあてに向けた体力づくりの推進に取り組む。 ② 「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の結果分析を生かし、年間を通した体力向上に取り組む。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>89.2</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 運動集会は実施が難しいため、各種検定カードを業間や昼休み、授業の初め等で活用し、体力の向上を図る。	対象	達成率 (%)	教職員	100	児童	89.2				
対象	達成率 (%)											
教職員	100											
児童	89.2											
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① おはなしタイム（教育相談）や保護者との懇談を通した児童理解の推進を図る。 ② 校内支援委員会やケース会議を活用して、指導目標・指導の手立て等の検討を行い、組織的指導の充実に努める。（会議の内容を全職員で共有していく） ③ 困り感を抱えた児童が自信をもって生活できるよう、かがやきルームにおける指導の充実に図る。 ④ 個別支援計画の作成を行う。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr></table> 教職員の肯定回答は100%である。 【次年度の方針】 おはなしタイムの活用により、児童理解が深まっている。校内支援委員会により組織的に指導するための目標等の対応ができており、今後も継続していく。かがやきルームでの指導も充実しており、今後も継続していく。	対象	達成率 (%)	教職員	100						
対象	達成率 (%)											
教職員	100											
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 学年・学級懇談会や学校だより、HP 等で積極的に学校の方針を説明・公表するとともに、保護者や地域といじめに関する情報交換に努める。 ② 「いじめは絶対に許さない」、「いじめには大人が介入する」を全教職員で認識し、児童の主体的な取組（いじめゼロ集会）も促しながら、未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ③ 「いじめゼロ集会」の実施を行い、いじめゼロ強調月間の取組の充実に図る。 ④ おはなしタイム（教育相談）、Q-U 検査等を活用した実態把握の工夫や年4回のいじめアンケートの実施と結果の効果的な活用を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>82</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>97</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 いじめの早期発見や対応に努め、早期解決に組織的に取り組んでいく。また、いじめが解消した後も、関係児童の心のケアを丁寧に行う。いじめ防止への活動については、学校・学年だよりで保護者に情報を発信していく。	対象	達成率 (%)	教職員	100	保護者	82	地域住民	100	児童	97
対象	達成率 (%)											
教職員	100											
保護者	82											
地域住民	100											
児童	97											

の 姿	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導や教師と児童の協働・共遊を通して、明るく活気に満ちた学級風土づくりを推進する。 ② おはなしタイム（教育相談）・Q-U 検査の結果やスクールカウンセラーの効果的な活用に努め、児童の内面を共感的に受け止め児童一人一人を大切にする。 ③ 欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、対策委員会での共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ④ 家庭訪問や別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫に努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.8</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.6</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 不登校児童や長期欠席の児童は徐々に減少している。新規の不登校児童が出ないためにも、児童の内面を共感的に受け止めることや、居心地の良い学級づくりを進め、明るく活気に満ちた学級の雰囲気が保たれるようにする。	対象	達成率 (%)	教職員	100	保護者	87.8	児童	96.6	
	対象	達成率 (%)										
	教職員	100										
	保護者	87.8										
児童	96.6											
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 充実した学校生活を送れるよう、実態把握に基づいた教育課程や支援計画を作成し、適切な指導・支援を推進する。 ② 効果的な支援に向け、日本語指導講師・関係機関との積極的な連携を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr></table> 教職員の肯定回答は100%である。 【次年度の方針】 児童・保護者の実態に合わせ、市の関係機関と連携しながら対応していく。また、地域人材や資源の活用や、PCタブレットの利用を行い支援が円滑にできるように努める。	対象	達成率 (%)	教職員	100						
対象	達成率 (%)											
教職員	100											
A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート 「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 児童の学習意欲を高める授業を工夫する。（ペア学習・教材の工夫・めあての提示・ICT機器を使った学習など工夫し、わかる授業を展開し、一人一人に学びのある授業を行う） ② 学級活動や縦割り班活動、みどりタイム等で、話し合い活動を意図的に取り入れ、児童の主体的な活動を推進し、豊かな人間関係を構築する力を育てる。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.9</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.4</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 縦割り班や兄弟学年等の活動を行うことで、児童が主体的に活動できる場を設定する。	対象	達成率 (%)	教職員	100	保護者	90.9	地域住民	100	児童	91.4
対象	達成率 (%)											
教職員	100											
保護者	90.9											
地域住民	100											
児童	91.4											
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業研究に積極的に取り組み、児童一人一人が意欲を持って取り組める分かる授業の工夫に心がけ、学力向上に努める。 ② スキルタイム（朝の学習）を充実させるとともに、家庭学習について「家庭学習のヒント集」（陽南地域学校園）を活用し、具体的な指導・支援を行うことにより、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ T・Tによる学習や少人数による習熟度別学習を充実させると	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.8</td></tr><tr><td>児童</td><td>97.7</td></tr></table> 対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 ICTを取り入れた学習活動を行う。スキ	対象	達成率 (%)	教職員	100	保護者	87.8	児童	97.7		
対象	達成率 (%)											
教職員	100											
保護者	87.8											
児童	97.7											

		もに、特別支援教育の考え方を生かした指導を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。 ① 管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施に努める。 ② 業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施を図る。 ③ 各スタッフによる関係教職員への積極的な情報提供の推進に努める。 ④ 校内支援委員会等の各種委員会に専門性を有するスタッフも組織の一員として位置づけ、積極的な情報提供や意見を反映できるようにしていく。	ルタイムは、学力調査やテスト等の結果を活用し、学年で相談して計画的に実施する。 【達成状況】 教職員の肯定回答は100%である。 【次年度の方針】 単一の校務分掌では、対応できない事案に対しては、児童・保護者の実態に合わせて、多角的に対応したり、支援したりできるようにする。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施に努める。 ② 業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施を図る。 ③ 各スタッフによる関係教職員への積極的な情報提供の推進に努める。 ④ 校内支援委員会等の各種委員会に専門性を有するスタッフも組織の一員として位置づけ、積極的な情報提供や意見を反映できるようにしていく。	B	【達成状況】 教職員の肯定回答は100%である。 【次年度の方針】 単一の校務分掌では、対応できない事案に対しては、児童・保護者の実態に合わせて、多角的に対応したり、支援したりできるようにする。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 専門スタッフの役割を明確化し、学校業務の見直しを図る。 ② 年間を通して計画的に、多様な専門性を有する学校スタッフの活用を図り、安定した教育活動を進める。	B	【達成状況】 教職員において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 A L T、事務職員、学校栄養士、図書館司書などの専門スタッフと連携・協力して職務に当たるよう引き続き努める。計画的に各部学年担当者とそれぞれの役割において教育活動を進めていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園として、各教科で身に付けさせたい力を年間指導計画に位置付け、教職員が9年間で児童を育てる意識がもてるようにする。 ② 小中一貫教育研修会の各部の話し合いの内容や乗り入れ授業の内容を全体に周知し、共通理解を図る。 ③ 給食だよりや図書館だより等の地域学校園共有発行を推進する。 ④ 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。	B	【達成状況】 教職員・児童以外の対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 地域学校園内の職員の協力体制により、学校業務の効果的な取り組みを今後も進める。様々な場面において、児童生徒相互の交流の推進を効率的に努める。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 多くの教科や活動で学習支援ボランティアの協力を得るため、地域協議会を中心としてボランティアを組織化し学校と地域の連携を図る。地域資源や人材などの教育力を生かした体験型学習の充実を目指す。 ② 緑が丘小地域協議会に学校の情報を提供するとともに、地域協議会の活性化と活動の充実を図る。 ③ まちづくり協議会や地域協議会と連携して、「あいさつ運動」や「エコキャップ運動」等の活動に取り組む。	B	【達成状況】 児童以外の対象において、肯定回答は指標を達成した。地域住民は100%である。 【次年度の方針】 新たな学校支援ボランティアの声を発信することでさらに拡充を図り、地域資源や人材などの教育力を生かした体験型学習の充実を目指す。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行やホームページでの情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ② 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進や地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。	【達成状況】  B 児童以外の対象において、肯定回答は指標を達成した。地域住民は100%である。 【次年度の方針】 引き続き計画的に各便りを発行したり、ホームページを更新したりして、情報の積極的な発信・提供を行う。体験的な学習には、地域の施設(ふれあいコーポ)や企業(SUBARU)などと連携・協力に努める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 縦割り班清掃活動の児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 ② 長期休業前の清掃強化週間の有効活用や奉仕活動の充実を図る。 ③ 地域協議会と連携した緑化活動の推進に努める。 ④ 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 ⑤ 日常点検、定期点検等の安全点検を実施して、関係職員と連携した計画的な修繕の実施に努める。	【達成状況】  B 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 児童の目線に立って新しい生活様式を踏まえながら、日々の日常点検を行い、修繕が必要な個所については、補修を迅速に行う。計画的に教材教具・物品の整理や補修して、安全な学習環境づくりに努める。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 情報教育を推進するために、パソコン室の整備やICT機器の集中管理の徹底を図り、ICT機器の利用環境整備に努める。 ② 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、教育課程に即した図書選定を行い、学校図書館の整備を推進する。 ③ 市立図書館と連携した希望図書の有効活用を図る。	【達成状況】  B 保護者以外の対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 教職員と児童の肯定的回答は高いため継続。保護者には学年だより等を通して、伝えていく。
B2 危機管理対策等を充実させる。 【数値指標】保護者アンケート 「学校は、避難訓練や引き渡し下校を行ったり登下校の見守り等にボランティアを活用したりして、危機管理対策を充実させている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 登下校の児童の安全については、地域の実情に応じてボランティアや保護者の協力を依頼する。 ② 災害時の児童引き渡しや竜巻の時の行動の仕方を理解させ、訓練で実践化を図る。 ③ 不審者侵入対策の避難訓練の工夫をする。	【達成状況】  B 対象において、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 引き渡し訓練を実施し、児童や保護者の有事への関心を高め、危機意識の高揚を図っていく。

本校の特色・課題等	B 3 豊かな人間関係力を育てる場を工夫し、社会性の育成に努めている。	① 特別活動の研究を生かし、児童会活動や縦割り班活動がより児童の主体的な活動となるよう工夫する。 ② 委員会活動や学級活動において子どもたちによる自治的な活動を実践する。子どもたちの良さを生かしてみんなに認められ、自己肯定感を感じられる場を意図的に設定する。	B	【達成状況】			
	【数値指標】児童・教職員アンケート 「学級活動や縦割り活動で、友達と協力して進んで活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上			 <table><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>85.7</td></tr><tr><td>児童</td><td>62</td></tr></table>	対象	達成率 (%)	教職員
対象	達成率 (%)						
教職員	85.7						
児童	62						
				教職員の、肯定回答は指標を達成した。 【次年度の方針】 縦割り班活動を通して同学年や異学年に豊かな人間関係力を構築するようにする。また、学級活動を通して学級での自分よさ生かし自己肯定感を高めよりよい人間関係を築いていく。			

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 目指す児童の姿

- 「目指す児童の姿」に関する質問13項目中10項目で数値指標を達成した。その中でも、すべての対象において、市の肯定的回答割合を上回る項目は、次の3つである。

「進んで学習」「目標達成への取組」「英語を使ってコミュニケーション」

教職員が、基本的学習習慣の定着、学習意欲の向上、英語でのコミュニケーションへの意欲などを指導してきた成果と考える。
- 「目標達成への取組」について、教職員と保護者の肯定的回答割合を比べると、96.4%、82.0%と14.4ポイントの差がある。めあてに向け努力し達成感を味わったり、キャリア教育において自分のよさに気づき社会に生かそうとしたりするなど、自己有用感や勤労意欲を高める指導について、保護者と取組状況を共有する必要がある。
- 「思いやりの心」について、数値指標を達成しているが、地域住民の肯定的回答割合は、市を8.8ポイント下回る。今後、誰に対しても思いやりをもち接する態度を、生活目標や日常の言葉づかいなどを通して育てるとともに、運動会やお年寄りとの交流会などの行事においても、感謝の気持ちを高められるよう、事前から事後にわたり丁寧に指導する。
- 数値指標を達成していない項目は、次の2つである。

「宇都宮の良さの理解」「持続可能な社会への関心」

児童が、宇都宮の良さを教科等の学習（社会、総合的な学習の時間）の中で、DVDや体験を伴う教材を利用する。また、持続可能な社会への取組について全教職員で共通理解し、教職員自身の意識付けを強化していく。

2 目指す学校の姿

- 「目指す学校の姿」に関する質問15項目中14項目で数値指標を達成した。その中でも、複数の対象において、肯定的回答割合が90%を超えるなど顕著な項目は、次の4つである。

「いじめ防止への指導」「明るいきいきとした活気のある学校」「安全確保などの危機管理対策」「社会性の育成」

学校が、家庭・地域に情報を発信し、地域とともにある学校づくりを進めた。また、登下校時の見守りボランティアと情報を共有するとともに、教職員が、コロナ禍の中でも、友達と協調し認め伸ばす指導を行った成果と考える。
- 「業務の効率化」について、数値指標を達成しているが、教職員の肯定的回答割合は、市を2.3ポイント下回る。引き続き業務の効率化の視点での反省を次年度に生かすとともに、事務職員や学校栄養士などの専門スタッフとの学校運営へのさらなる参画を図る。

7 学校関係者評価

1 全般的事項

- 数値指標の達成度から成果と課題を整理し、次年度の方針を策定しており、マネジメントの機能を生かした評価をしている。
- 地域として力を入れている「あいさつ」「安全確保」「学校づくりへの支援」、また、地域でも心配している「いじめ防止」などにおいて、市の肯定的回答割合を上回る結果を得ており、学校経営は、概ね順調だと考える。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な取組が制限された。次年度は、可能な限り、保護者や地域の方々が参加していただく取組を実施していきたい。

2 項目別事項（市の肯定的回答割合を下回っているものを中心に）

- 「思いやりの心」

運動会や交流会を中心とした学校行事や生活科や総合の学習で地域の高齢者とふれ合う機会を復活していく。そして、年長者への感謝の気持ちや敬う心を育成していく。「児童が優しく接している」様子をホームページに掲載したり、学校だよりや学年だより等で積極的に情報を発信したりしてみてもどうか。

・ 「あいさつ」

新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、あいさつや行動を目にする場面の減少があった。次年度は、中学校とも連携し、コロナ禍でも可能な限り保護者や地域の方々にも参加していただく取組を行っていくようにしてみてもどうか。

・ 「小中一貫・地域学校園」

今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で様々な取組が制限された。次年度は、中学校と連携し、乗り入れ授業や合同あいさつ運動を再開してしてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 自他のよさを認め合い、学ぶ楽しさと居場所のある学校
- ・ 児童の自己有用感を高めるため、望ましい人間関係を確立し、共に学び育つ体験を重ね、引き続き、一人一人と集団を育てる教育を推進する。
- ・ 楽しい学校づくりに向け、児童と地域住民の交流を再開したり、地域の豊かな教育資源を活用したりするとともに、業務の効率化に組織的に取り組む。

【学習指導】

- ・ 主体的・対話的で深い学びのための授業実践
⇒ 宇都宮モデルの実現（めあて まとめ 振り返り）
 - ・ 学習課題を明確にし、見通しをもたせ主体的に学習に取り組める授業
 - ・ 対話的な学習を通して表現力の育成（まとめる力・伝える力）
 - ・ 家庭学習の推進
 - ・ 活用力の育成（思考・判断）
 - ・ 教科等との連携を図り「宇都宮学」「持続可能な社会」に対する意識の高揚

【児童生徒指導】

- ・ きまりやルールを守ること・言葉づかいや挨拶について指導の徹底を図る
⇒ 「緑が丘小生活のきまり」の徹底
 - ・ 日常における言葉づかい
 - 挨拶は、地域でも進んでできるようにしていく
 - あいさつ表彰などを通して意識の高揚に努める

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 健康や安全についての指導の徹底を図る
⇒ 健康で安全のため、学校体制で共通実践
 - ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に努める（新しい生活様式の実現）
 - ・ 交通安全ボランティアの方々と連携を図った安全指導
 - ・ 養護教諭、学校栄養職員と連携した健康教育の推進